

第6回 糸魚川市廃棄物減量等推進審議会 会議抄録

1 日 時 平成21年10月29日(木) 13時30分開会
16時10分閉会

2 場 所 糸魚川市役所 204会議室

3 出席者 ・委員15名、
新井委員、入沢委員、内山委員、大月委員、小笠原委員、北村委員、
佐藤委員、中山委員、福崎委員、藤野委員、穂苅委員、松澤委員、
柳委員、山岸委員、渡辺委員
(欠席)池田委員、後藤委員、本庄委員、山岸委員、山本委員

・事務局【市民課】 金平課長、伊藤環境対策室長、
渡辺副参事、七澤主査、中村主任主事
(清掃センター) 渡辺センター長、室川係長
【能生事務所】 中村主査
【青海事務所】 二宮主任主事
【財団法人 日本環境衛生センター】 南技師

・傍聴者 なし

4 会議の経過

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(3) 議 事

事務局からワークショップの進め方について説明

日本環境衛生センターから発生抑制、再利用、排出抑制について説明

日本環境衛生センターから事業系のごみについて説明

ワークショップ

各班の発表

1班：

発生抑制の取組み 買わない、もらわない。基本的には消費者の側の問題。

- ・生活に必要なものを厳選する。余計なものは買わない。
- ・安易に捨てるものは買わない。安いから買うという意識を少しずつ変える。例えばペットボトル禁止の町の取組み。
- ・包装のスリム化。包装の簡易化の海外の取組み紹介。
再利用の促進 繰り返し使う、譲る。
- ・使い捨てが多い現状。衣類のリユース促進。リサイクル工場の設立。
- ・アルミ缶からびん利用へ。
- ・家のリフォームで30年の寿命を100年に伸ばす。今あるものを丁寧に使うという意識。
- ・車の部品もリサイクル品を利用している。
- ・粗大ゴミ(衣類など)をフリーマーケットで流通。NPO法人の設立、運用が必要。
- ・すぐに捨てない、再利用する。生ゴミを肥料化、コンポストの利用。

- ・温泉ホテルの残飯 養鶏場 卵 ホテル 循環型の世界
 - ・韓国のツマヨウジは溶ける。食べ残しは家畜のエサ。市や国で決めてやることも必要。
は再資源化、リサイクルの促進の取組みだ。そのためには家庭ごみの分別が重要。電池の水銀（有害物質）問題は分別と資源化がカギ。それには市民の協力、市民への周知が大切。結局は埋立をいかに少なくするかということだ。
- 市への要望：ゴミステーションの利用は平日に限られている。休日利用できるゴミステーションを設置してほしい。新設または既存の活用。

2班：資料に沿って説明。

発生抑制

- A-1 なるべく包装を断る（消費者）
- A-2 過剰な包装をしない（事業者）
- A-3 マイバッグキャンペーンの広報（行政、NPO）
- A-4 レジ袋の有料化及び啓発・広報（事業者、行政）
- A-5 必要なものだけ買う（消費者）

事業者における発生抑制の実態は？

再利用の促進

- B-1 フリーマーケットやレンタルの仕組みづくりと運営（行政、NPO）
- B-2 広報・啓発（行政、NPO）
- B-3 具体的事例の紹介・広報（NPO）

事業者における再利用の実態は？

排出抑制

- C-1 紙製容器を可燃ごみから資源ごみに変更 「1人1日当たりの家庭系ごみ排出量」の削減（行政）
- C-2 少人数単位での分別講習会の開催。子どもへの環境行政の教育（行政）
- C-3 家庭系及び事業系ごみの有料化 「1人1日当たりのごみ総排出量」の削減（行政）
- C-4 エコクッキングの具体的事例の紹介・広報（NPO）

事業者における排出抑制の実態は？

3班：

発生抑制

- ・冠婚葬祭の引出物は過剰包装の極み。業者と主催者でごみを少なくする努力を。
- ・折込チラシの必要性は？。資源として活用、減量化のため、商工会へ提言し、チラシ発行業者からも減量化を考えてもらう。地域全体で取り組むことが大切。
- ・各家庭、個人できちんと分別することが最も大事。面倒くさがったり、時間に追われたり、燃えるごみが増える。
- ・食器の貸出。使い捨てにしない。イベントなどのお弁当の容器も再利用できないか。

再利用の促進

- ・生ごみのリサイクル化。家畜の飼料（長岡市の取組み）、堆肥化など。
- ・リサイクルセンターの設置。子供用の自転車、スキー、冷蔵庫など。
- ・市のホームページでリサイクル促進。

排出抑制

- ・レジ袋の有料化。

- ・自分が関わったことでの見返り、成果。
- ・宴会の食べ残しが非常に多い。持ち帰りパックの活用。

<意見、質問>

委員)宴会の食べ残しは、その割烹、料理屋などの業者がリサイクルするべきだといわれている。事業者が取り組める仕組みづくり、また取り組めるよう推進することが重要。食品衛生法でも食品のリサイクルが進められている。事業者は食品リサイクルに取り組むことで営業につながる。

委員)市民が宴会の料理を注文している。余らないような予算で頼むことが大事。

委員)月に一回の収集日しかないごみもある。いろんな事情で出せない場合があるので、地区でステーションを作ることはできないか。地区の預かり所があると便利。

委員)上越市では、資源ごみ(紙、ダンボール、チラシ、ペットボトル)だけが、いつでも利用できるステーションがある。

委員)このような会合の結果、市の方針が出るのか?

事務局)ここまでのワークショップの結果を、もう一度整理してグルーピングしていく。そして計画書の中に落としこみをする。そしてできたものをまた皆さんからご審議いただいて、具体的にご議論いただいて全体の計画をまとめていきたい。

委員)行政として糸魚川市はこうあるべきだ、というビジョンをしっかりと示してほしい。

事務局)目標の数値があるので、いけるかどうか日本環境衛生センターとも協議したい。せっかく議論いただいたので、新しいもの、メリハリのあるものとしていきたい。

委員)行政サイドで広範囲にいろいろと考えて、最終的には、全国的、世界的に、糸魚川市としてはこういう風に持っていった方が一番ベターだという方向にもって行ってほしい。

事務局)リーディングプロジェクトのような形で、これとこれだけは最優先でやっていきたいというメリハリが出てくると思う。ご期待に沿えるような形にするべく研究させてもらいたい。

委員)人口の減少も加味してもらいたい。

事務局)減少すると、たとえば清掃センターを糸魚川市として所有するのが良いのかという議論も出てくる。そこまで書き込めるかどうかわからないが、ご指摘のとおりと思う。

委員) 3 Rはもうすぐ死語になるのではないか。情勢を鑑みて考えていただきたい。

事務局) 1 R(発生抑制)だけということも考えられるが、国の方針も踏まえながら、市として検討していきたい。

【事務局から】

まとめたものを次回提出し、議論いただきたい。まとめるための時間をいただきたいので、今回は未定とさせていただきたい。なるべく早くしたい。

(4) 副会長挨拶

(5) 閉会